

令和6年度 自己評価および学校関係者評価書

令和7年2月26日
函館市立中央小学校

1 本年度の重点教育目標

「自ら学び 自ら考え 自ら進む子」

2 本年度の取組の重点

- 「いっしょに！ 夢と希望に向かう学校」をつくるための「Action 5」
- (1) Action 1 「見付ける」 自己理解や他者理解を図る。
 - (2) Action 2 「高める」 教職員の資質能力と子どもの能力の向上を図る。
 - (3) Action 3 「守る」 教職員と子どもを守る。
 - (4) Action 4 「変える」 旧態依然から脱却し、良いものに改善する。
 - (5) Action 5 「整える」 組織の機動力を生かし、統一した取組を展開する。

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価 主な意見（改善策など）
①	バランスのとれた「生きる力」の育成 全ての子ども学びを保障する、教育課程の編成・実施・評価・改善に努め、知徳体のバランスのとれた「生きる力」を育成する。 ○学力の充実（確かな学力） ○心力の充実（豊かな心） ○体力の充実（健やかな体）	b	□校内研究等でICT活用の推進を位置付け、「主体的、対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善の促進と、思考・判断連動した豊かな表現力を高める教育活動の展開に努める。 □全校道徳の地域公開の実施や、全教育活動を通じて、道徳教育推進教師の実効性を高め、意図的・計画的に指導方法の工夫・改善を学校全体で推進する。 □運動に親しむ習慣や基本的な生活習慣を育む指導の充実を図るよう、長縄週間の設定や新体力テストの活用及び生活リズムチェックシートを活用した生活習慣の確立を図る。	A	A ○子供のやる気を引き出して頂き、学習等に楽しんで挑戦するようになりました。何に対しても前向きに明るく取り組む事を教えて頂いている様子です。
②	教職員の資質能力の向上 教職員としての誇りと責任及び自覚をもち、子どもたちの成長のために研修活動等を通して、資質能力の向上に努める。 ○豊かな人間性・専門性・社会性を身に付けた「教師」としての不断の努力の継続 ○共に高め合う研修活動の確立と実践 ○質の高い研修活動と業務推進の工夫改善	b	□客観的データに基づく課題の解決に向け、一人一授業及びミニ研修の複数回実施により、全校の授業改善を推進する取組を継続する。 □重点単元を位置付け、系統的・継続的な指導の徹底及びチェック&アクションによるカリキュラム・マネジメントを加速させる。 □職員への研修への受講奨励を効果的に行う。	A	A ○繊細な子なので、年度当初は心配なことも多くありましたが、毎日楽しく学校に通っている姿を見て安心しております。
③	保護者や地域住民に信頼される教育活動の推進 学年間や分掌間の連携を密にし、組織としての活性化を図るとともに、異職種間の交流を充実し、保護者や地域住民に信頼される教育活動を展開する。 ○「学校運営協議会」事業の立案と円滑な推進 ○近隣の保育園等、小学校及び中学校との情報共有及び交流の実施 ○保護者、地域住民及び関係機関との連携を通じたCSの推進と工夫改善	b	□中学校区及び本校CSにより、中学校及び保育園との計画的な連携を図り、校種間の円滑な接続を実現し、学びの連続性を保障する。 □各種情報の積極的な発信と受信を心掛け、地域や関係機関を巻き込み、持続可能で効果的な連携の推進に努める。 □教育的効果を一層高めるため、関係機関及び近隣町会との連携を、より一層充実させ、中央小でのCSを活用した地域の人材、資源及び施設等の有効活用を図る。	A	A ○子供の毎日の出来事に細やかな対応、目配りをして下さるので、子供も先生に様々な相談をさせて頂き、信頼をしている様子です。
④	業務改善の推進 「目指す学校の姿」の具現化を図る 「Action 5」を踏まえた学級及び分掌経営の工夫改善を通して、開かれた学校づくりに向けた責務を果たす。 ○「Action 5」を意識した学級経営及び分掌経営の計画立案と積極的な推進 ○教育活動における保護者等への「説明責任」及び「結果責任」の徹底 ○学校改善に生かす学校評価の工夫改善	b	□学級経営案に、Action 5の項目を盛り込み、重点を意識した教育活動の展開を図る。 □ICTの活用による業務の精選及び効率化の推進と、教育活動の充実を一体として捉え、保護者や地域住民等からの負託に応えられるよう努める。 □持続可能で、充実した教育活動の在り方の検討とともに、分掌の細目を見直し、効果的で効率的で機動性ある組織体制を構築する。	A	A ○子どもの育ちや学びについての相談がしやすく、丁寧に対応していただき、感謝しています。
⑤	保護者及び地域住民との連携を密にした、教育活動や安全確保 危機管理体制の強化といじめのない学校づくりを目指し、保護者や地域住民と連携した「安全で楽しい教育環境づくり」に努める。 ○保護者や地域住民との情報の共有化 ○子どもの健康と安全、危機管理等における家庭と地域との協働した取組の推進 ○いじめや不登校の根絶を図るための支援体制の充実	b	□学校行事をはじめとする教育活動の観覧等を設定するなど、保護者、地域住民に学校や児童の現状を把握してもらえよう努める。 □学校と家庭、地域をつなぐ「中央かわら版」を発行し、特に、町内会や校区内の施設との関わりを通して、住民とのつながりを深める教育活動の展開を図る。 □スクールカウンセラー、スクール・ソーシャル・ワーカーや、函館市子ども未来部等、関係機関との一層の連携・強化を図る。	A	A ○地域との連携授業がどの学年にもあり、学習を通じた地域とのつながりを強く感じます。 ○登下校の見守りや、子どもの安全確保に関わる情報をマチコミメールで流してもらい、安心しています。

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいか、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。